

# 1 3億円程度の町単独 基金設立を早急に

## 基金の総額等、思いきった対策を打つ



龍田安廣議員

**問** 町内においては、台風12号の災害を受けた箇所が数百カ所に及ぶ。激甚災害指定を受け、国、県から補助のあるものは復旧・復興がスムーズにいくと思う。しかし、補助金のつかない箇所（里道、宅地、工場、倉庫等）は多種多様にある。これらの復旧・復興を助けるため、3億円程度の町単独基金を早急に設立できないか。

中津地区で薬品が流出した会社があるが、公害

**答** 防止協定書はあるのか。災害を受けた町の施設で、指定管理者のものも働いている人達は、どうなっているのか。

基金の取り崩し等



小規模災害

は、国庫補助やいろいろな対策で抜けているものにつきこんでいく。基金の総額は、関係各課とすり合わせて必要な金額を算定していく。思いきった対策を打つ。

中津地区の会社との公害防止協定は、平成4年に締結している。

指定管理者のもと、営業停止部署で働いている人達は、臨時的な配置転換で従事している。



台風12号により被災された皆様には心から御見舞い申し上げます。

また、3名の方が犠牲となり、未だに1名の方が行方不明となっています。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

今回の災害で多くの皆様、住宅や農地・店舗・工場等、今まで築き上げた財産を失いました。よく比較される昭和28年7月18日の大水害に匹敵する規模でありました。ただ、当時との大きな違いは、治水目的の樺山ダムが存在していることです。私たちはあの大水害にも耐えられるのが樺山ダムと信じていました。しかし、その機能は発

揮できませんでした。

想定外の自然災害であったのか、県の管理に問題はなかったのか、避難指示は適切であったのか。全てのことについて検証をしなければなりません。二度とこのようなことは経験したくありません。

「同じ災害を繰り返させない」それが後世に対する私たちの責任であると思います。

復旧・復興に関しては始まったばかりです。当初の混乱からは、少し落ち着きを取り戻しつつあるように感じます。しかし、被害の度合いや状況の違いにより、復旧に対し、手付かずの方や戸惑いを隠せない方も数多く見受けられます。心のケアも含め、個々に違う被災に対応する、きめ細やかな政策が求められています。

私たち議員も、この非常事態に「台風12号災害の検証と復興に関する調査特別委員会」を立ち上げ、検証と復旧・復興に全力を尽くします。

今回の災害では、町民の皆様、全国の皆様からボランティアをはじめとする温かいご支援をいただきました。厚くお礼を申し上げます、今後ともお力添えをどうかよろしく願っています。

(入口 誠)

